

## 調査速報

# タイ自動車市場月次統計（2017年2月）

内需回復が輸出減退を吸収しきれず減産トレンド継続。  
国内生産は年率 180 万台割れにまで落ち込む。

主任研究員

深尾 三四郎

045-225-2375

[fukao@yokohama-ri.co.jp](mailto:fukao@yokohama-ri.co.jp)

## 要約

- 2月国内生産台数（季調値）は前月比5.2%減の年率176.6万台。引き続き輸出減少が生産の足かせに。
- 同月輸出台数（季調値）は同2.0%減の年率112.4万台と4か月連続の120万台割れ。
- 一方、内需は回復基調にある。国内販売台数（季調値）は同12.7%増の年率88.1万と大きく伸長。

## 輸出環境の悪化が続いており、内需回復をもってタイ自動車市場の見通しを楽観視するのは禁物

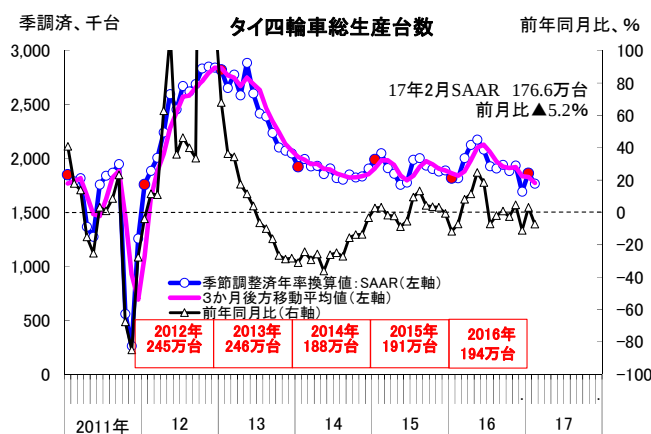
タイ工業連盟（Federation of Thai Industries）が発表した2017年2月の四輪車総生産台数は、前年同月比7.2%減少し、季節調整済年率換算値（当社試算、以下SAAR）も前月比5.2%減の176.6万台と年率180万台を割り込んだ。3か月後方移動平均値でみたトレンドは昨年7月からの減少基調が続いており、昨年実績194万台を下回る足元の生産は底が見えない状況が続いている（図表1）。

輸出台数の減少が国内生産の足を引っ張っている。2月の総輸出台数は前年同月比6.2%減と8か月連続で前年割れとなり、SAARも前月比2.0%減の112.4万台と、4か月連続で120万台を下回っている（図表2）。引き続き中近東やアフリカでの景気悪化が逆風となっている。3か月後方移動平均値でみたトレンドは下向いたままである。

一方、2月の国内販売台数は前年同月比19.9%増と2か月連続の2桁%増となり、SAARも前月比12.7%増の88.1万台と大きく伸長した（図表3）。国内販売が年率80万台を超えたのは7か月ぶりのことである。2月の消費者信頼感指数は3か月連続の上昇となり、消費ムードは緩やかながらも改善の動きが続いており、内需拡大の下支えとなっている（図表4）。

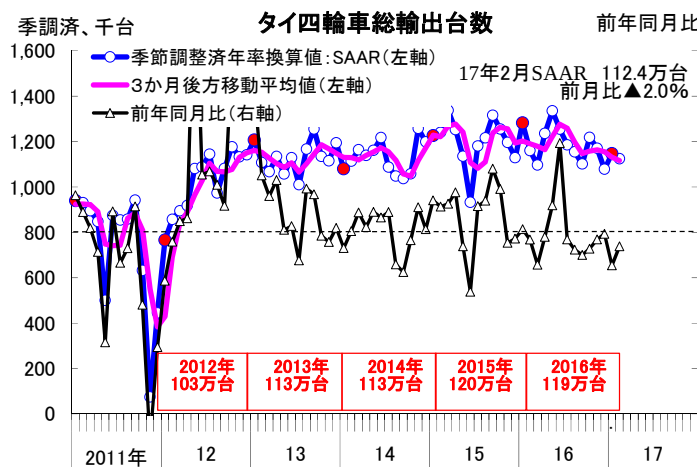
タイに製造・販売拠点を持つ自動車関連上場企業の多くは、4月下旬から16年度の決算発表を行う。ASEANの中核市場であるタイでの新年度の事業については、輸出減速に伴い国内生産の下方圧力が高まることから、保守的な収益見通しがコメントされる可能性が高い。完成車の国内販売が回復しているという点を取り上げる企業もあるが、そのような企業に対しては、ピックアップトラック市場の価格競争激化と高収益である同セグメントの販売構成比が低下する（＝収益性が劣る乗用車の新型車投入が増える）といった市場全体で収益性が悪化する懸念が高まる中で、合理化の推進、新製品の投入や新規顧客の開拓などによる拡張といった収益拡大策を実行・計画しているのかに注目したい。

図表1 国内生産（SAAR）の減少基調が続く



注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
注2：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
出所：Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数（SAAR）のトレンドが下向き

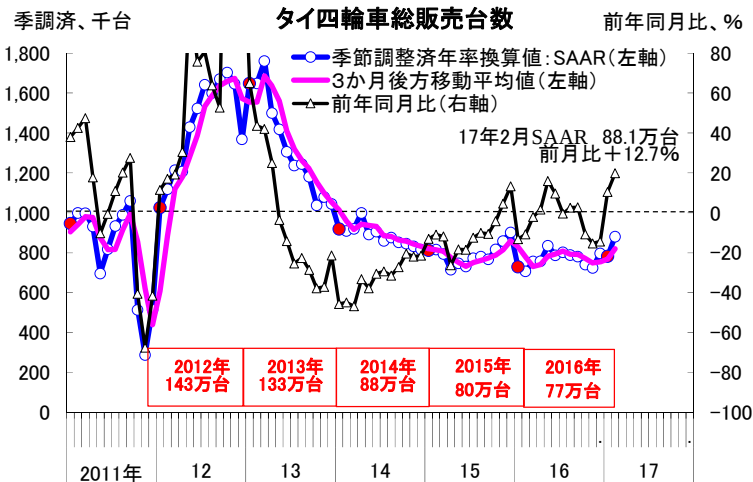


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表3 2月国内販売（SAAR）は大幅増

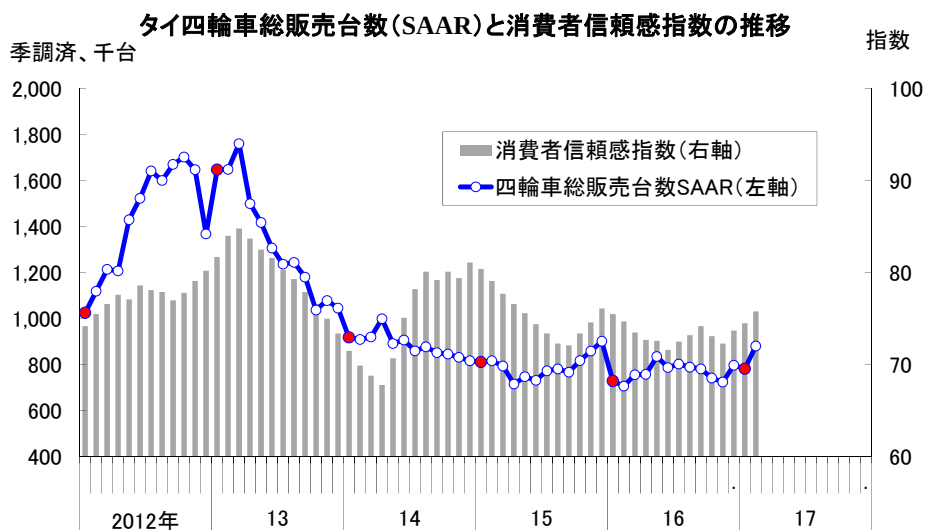


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表4 2月の消費者信頼感指数は3か月連続の上昇



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所: Federation of Thai Industries、University of the Thai Chamber of Commerceのデータを基に作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。